

科目名 (英文表記)	ファイナンス I (コーポレートファイナンス) (Finance I)		
科目区分	基本科目	単位数	2 単位
担当教員名	手島 直樹	ナンバリング	MBA_B_FI 5111
研究室番号	335	研究室電話番号	27-5459
Eメール・アドレス	n-tejima@res.otaru-uc.ac.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
<p>授業の目的：</p> <p>上場企業の財務部や IR 部門において、コーポレート・アナリスト（企業内アナリスト）として財務戦略の立案や投資評価を行うために必要なスキルを養成することを本授業の目的とする。ファイナンス理論がカバーする対象は多岐にわたるが、本授業においては、コーポレート・アナリストに不可欠となる部分（ファイナンスの四本柱＝投資評価、資本コスト、資本構成、株主還元）にフォーカスし授業を行う。また、本授業は、後期に開講されるファイナンスⅡのイントロダクションとして位置づけられるものである。</p> <p>本授業は大きく分けて以下の 3 つのフェーズに分かれる。</p> <p>■フェーズ 1：投資評価 現在価値、将来価値、資本コスト、投資判断の手法などコーポレートファイナンスの基本中の基本を学ぶ。</p> <p>■フェーズ 2：企業価値評価 上場企業（キリンホールディングス）をケースとして実際に企業価値評価を実践する。</p> <p>■フェーズ 3：財務戦略 資本構成や株主還元政策などコーポレートファイナンスの実務において重視される財務戦略について学ぶ。</p> <p>なお講義では、日米企業のケーススタディを多く取り上げることにより、理論が実務においてどのように実践されているのかを理解することを目指す。</p> <p>到達目標：</p> <p>到達目標は、事業会社の財務担当者や IR 担当者としてファイナンスの観点から企業価値創造に資するために必要な基礎的なスキルを身に付けることである。</p> <p>参考図書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂川伸幸『コーポレートファイナンス入門〈第 2 版〉』日本経済新聞出版社 2017 年（教科書に指定するものではないが、授業の予習・復習に役立つと思われる） ・手島直樹『ROE が奪う競争力ー「ファイナンス理論」の誤解が経営を壊す』日本経済新聞出版社 2015 年 			

- ・手島直樹『まだ「ファイナンス理論」を使いますか？MBA 依存症が企業価値を壊す』日本経済新聞出版社 2012 年
- ・手島直樹『株主に文句を言わせない！バフェットに学ぶ価値創造経営』日本経済新聞出版社 2016 年
- ・手島直樹『経営者こそ投資家である』日本経済新聞出版 2020 年
- ・株式会社東京証券取引所「コーポレートガバナンス・コード」 2021 年
- ・Richard A. Brealey、Stewart C. Myers
『Principles of Corporate Finance』McGraw Hill Higher Education; Global版2013年
- ・砂川伸幸、杉浦秀徳、川北英隆『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社2008年
- ・砂川伸幸、杉浦秀徳、川北英隆、佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社2013年

成績評価の方法：

- ・中間課題 40%
- ・最終課題 60%（分析対象企業として上場企業を1社選び、企業価値評価モデルを作成し、理論株価を算出する）
- ・課題の締切り後の提出は評価を8掛けにする。
- ・評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。

履修上の注意事項：

- ・事前のリーディングアサイメントは、成績評価には影響しないが、講義の理解に影響するため必ず実施すること。
- ・講義は、リーディングアサイメントをベースとしたレジュメを利用して進めていく。
- ・中間・最終課題では、選択した上場企業の企業価値評価、財務戦略に関する提言を行い、レポートとしてまとめ提出する。
- ・講義の難易度やスピードは受講生の理解に合わせて調整することがあるため、シラバスの内容は随時変更する可能性がある。
- ・授業は講義が中心であり、受講生によるプレゼンテーションやディスカッションの時間を設けることはないが、授業中の発言や質問は歓迎する。
- ・中間及び事後課題のレポートは、WordまたはPower Pontでファイルを作成し、Excelも合わせてManabaで提出すること。提出期日は授業にて指示する。